

1. 会長挨拶
2. 2023 年度全国大会のお知らせ
3. 2023 年度総会のお知らせ
4. 懇親会のお知らせ

会長挨拶

佐々木 和貴

会員の皆様におかれましては、いかがおすごしでしょうか。

今年は2019年の東北学院大学以来、久しぶりに、対面での全国大会となります。ここ数年、3つの支部が「結びつく」場を確保するため、オンラインでの全国大会開催を継続してまいりましたが、やはり、生身の人間が語る言葉の説得力や発表者の佇まいが放つ個性を感じるには、対面に及ぶものではありません。私たちが携わっている人文科学の場合、そうした発表(者)との遭遇こそが、次の研究へのモチベーションを高めるものになると思います。東京支部の伊澤先生のご尽力で、学会会場だけでなく、近隣に懇親会会場も確保する事ができましたので、9月16日(土)は、みなさま、是非、立正大に足をお運びください。お待ちしております。

この2年間、事務局長の川崎先生はじめ、多くの会員の皆さんに、学会運営でご協力をいただきました。コロナの渦中で会長になり、ときに途方に暮れましたが、そのとき一番痛切に感じたのは、こうして一緒に学会を支えてくれる仲間がいることのありがたさでした。皆様のご尽力に感謝し、「これからも、一緒に前に進んでいきましょう」とお伝えして、最後の会長挨拶とさせていただきます。

2023年度全国大会（第12回）および総会のお知らせ

全国大会および総会を立正大学にて開催いたします。

日時：2023年9月16日（土） 13時30分～17時00分

場所：立正大学 品川キャンパス 9号館地下1階 9B11教室

当日は「山手門」が閉まっておりますため、「正門」からお入りください。

全国大会（第12回）プログラム

【開会のあいさつ（13:30-13:35）】

会長：佐々木 和貴

【研究発表（13:35-16:45）】

1. 13:35-14:15

ジョン・ミルトンの「竜の歯」での検閲制度への抵抗

川崎 和基（東北支部）

司会：菅野 智城

2. 14:20-15:00

ジョン・ダンの「ごた混ぜの現実そのままの教会」と保守主義

曾村 充利（東京支部）

司会：伊澤 高志

3. 15:05-15:45

リバティニズムからの逃亡— ‘Against Fruition’ とアフラ・ベーン

竹山 友子（関西支部）

司会：友田 奈津子

【閉会のあいさつ（15:45-15:50）】

事務局長：川崎 和基

研究発表要旨

ジョン・ミルトンの「竜の歯」での検閲制度への抵抗

川崎 和基（東北支部）

ジョン・ミルトンは *Areopagitica* (1644) において、書物の持つ力について説く。書物には良書と悪書があり、教会も国家も、悪書を取り締まろうとしているが、書物は良書であれ悪書であれ、書物自体に命の力が含まれており、悪書も命をあたえるものであるのと主張する。この書物の力を封じ込めようとする、長期議会が1643年6月14日に発布した「印刷の規制に関する法令」をミルトンは議会に撤廃すべきであると非難する。ミルトンは「出版に関する星室庁令」(1637)、さらには、印刷取り締まりの目的や検閲人、特にカンタベリー大司教ウィリアム・ロードや書籍業カンパニーについて、また、書籍業カンパニーの検閲制度に係わる思惑や出版事情を十分認識して、「印刷の規制に関する法令」に異を唱えた。本発表では、*Areopagitica* を中心にして、星室庁廃止(1641)に伴う事前検閲制度の機能の低下から噴出した書物・パンフレットの持つ力を抑制しようとする議会の法令に、「竜の歯」(Dragons Teeth)を持つ書物をして抗うというミルトンの主張を考察しながら、書物・パンフレット戦争の黎明期にミルトンがいかに対峙したのか再考したい。

ジョン・ダンの「ごた混ぜの現実そのままの教会」と保守主義

曾村 充利（東京支部）

ダン は 英国 国教会 の ヴィア・メディア の 擁護 者 で あ っ た 。 国 教 会 思 想 (ア ン グ リ カ ニ ズ ム) は カ ル ヴ ィ ニ ズ ム と イ エ ズ ス 会 と い う 二 つ の 極 端 な 信 条 や 信 仰 告 白 と の 対 峙 の な か で 形 成 さ れ て い っ た 。 宗 教 戦 争 、 テ ロ 、 教 会 分 裂 、 内 乱 、 ア ナー キー な ど の 脅 威 に さ ら さ れ る な か 、 イ ン グ ラ ン ド の 分 裂 を 防 ぎ 、 秩 序 と 自 由 を 守 る た め の 保 守 主 義 で あ っ た 。 国 教 会 は 祈 禱 書 に よ る 礼 拝 の 統 一 を 法 的 に 求 め る 一 方 で 、 教 義 上 の 対 立 を 嫌 っ て 定 義 を 避 け 信 仰 告 白 を 強 制 せ ず 、 カ ト リ ッ ク 教 徒 と 異 端 以 外 の あ ら ゆ る 者 を 寛 容 に 包 容 し よ う と し た 。 こ の 時 代 に 「 ダ ン の ご た 混 ぜ の 現 実 そ の ま ま の 教 会 」 (T . B e t t e r i d g e) が 現 出 し た こ と は 自 然 で あ っ た 。 ダ ン は 国 教 会 の あ り よ う を 不 決 定 性 と 共 に 重 層 的 に 表 現 し 擁 護 し て い る よ う に 見 え る 。 詩 と 散 文 の 世 界 は 深 く 大 き い が 、 必 ず し も 論 理 的 で は な く 相 矛 盾 す る 意 見 や 発 想 を 含 み 、 し ば し ば 複 雑 で 曖 昧 で あ る 。 当 然 、 こ の よ う な ア ン グ リ カ ニ ズ ム 理 解 を 受 け 入 れ 難 い 論 者 の 中 に は 、 ダ ン の 信 仰 を 疑 い 、 著 作 は 「 不 統 一 な 学 識 の 巨 大 な 寄 せ 集 め 」 で あ る と 見 な す 者 も い る 。 非 告 白 主 義 、 無 関 心 ご と 、 エ ラ ス ム ス 的 世 界 教 会 主 義 、 包 容 主 義 、 平

和主義、妥協、王権神授説物等の論点や人脈から、ダンの保守主義を再考する。

リバティニズムからの逃亡ー ‘Against Fruition’ とアフラ・ベーン

竹山 友子（関西支部）

王政復古期に活躍した女性作家アフラ・ベーンは劇作家として有名であるが、同時に多くの詩を執筆して発表している。時にジェンダー規範を逸脱するようなエロティックな表現を用いる彼女の詩は、王政復古期特有の性的放縦を是とするリバティニズムの反映とみなされることが多い。その一方で、17世紀には主に男性詩人によって執筆された、欲望成就の達成感を否定する ‘Against Fruition’ と呼ばれるジャンルの詩が流行し、その流れは王政復古期に入っても続いた。アフラ・ベーンも ‘Against Fruition’ に属する詩 “To Alexis in Answer to his Poem against Fruition. ODE” (1688) を執筆している。本発表では、 ‘Against Fruition’ の詩群におけるベーンの詩の位置づけを確認した上で、上述の詩だけでなく ‘Against Fruition’ に直接関連していると思われない詩も取り上げながら、ベーンにとっての ‘Against Fruition’ の意味を問い直したい。

2023 年度総会総次第（16時00分～17時00分）

【報告・連絡事項】

- 1 各支部活動報告
- 2 編集委員会報告
- 3 2022 年度会計報告（資料は当日配布）
- 4 その他

【審議事項】

- 1 次期会長選任
- 2 次期本部役員選任
- 3 オンラインジャーナルの創設 および
日本学術会議協力学術研究団体加盟について（資料は当日配布）
- 4 その他
 - (1) 転載許可について
 - (2) その他

懇親会のお知らせ

日時：2023年9月16日（土）17時30分～19時30分

場所：ヤオロズクラフト

東京都品川区西五反田 1-4-8 秀和五反田駅前レジデンス 1F、2F
050-5597-8967

立正大学より徒歩10分ほど

<https://tabelog.com/tokyo/A1316/A131603/13247587/>

参加費：7,000円

懇親会出席のご希望は9月3日（日）まで各支部事務局にご連絡ください。

* 本部事務局：川崎 和基

* 本部会計：相田 明子

* 東北支部事務局：古河 美喜子

* 東京支部事務局：伊澤 高志

* 関西支部事務局：友田 奈津子